

検察庁法 改定案

広がる採決反対

野党、徹底審議を要求

武田担当相の不信任案提出

「検察庁法せつたい反対」「強行採決せつたい反対」。国会の外で上がるシチュエーションが委員室に響きました。特定の検察幹部の定年を特例で延長すること
を可能にする検察庁法改定案の審議が行われた15日の衆院内閣委員会。わずか6時
間余りの審議での採決強行を狙う自民、公明両党に対し、日本共産党と、立憲民主党、
国民民主党などの共同会派は徹底した審議を求めました。与党側は質疑後の理事会
で採決を提案。野党側は「断固採決は認められない」と拒否し、国民の世論を一顧だ
にせず、説明責任を果たしていないとして、武田良太国家公務員担当相不信任決議案
を衆院に提出。内閣委員会は散会となりました。

↓関連②面

政府、恣意的介入否定できず

藤野氏が批判

日本共産党の藤野保史議
員は衆院内閣委員会で、内
閣の判断で特定の検察幹部
の定年延長を認める「特別
規定」を盛り込んだ検察庁
法改定案について「検察官
の独立性を書し、憲法の基
本原理である三権分立を脅
かすものだ」と批判しまし



質問する藤野保史議員
15日、衆院内閣委

た。森雅子法相はともに恣意的介入の余地をつくり
答えられず、藤野氏は「新
だす」と批判しました。

型コロナウイルスの収束の
ために集中すべき時期に、
火事場泥棒的に改定案をご
り押しすることは許されな
い」と述べ、撤回を求めま
した。

藤野氏は、検察官は唯一
の公訴提起機関で、単なる
行政官ではないと指摘。総
理経験者さえ逮捕・起訴で
きる特別の権限を持つ「準
司法官」であり、その高い
政治的中立性を担保するた
め、一定の年齢で例外なく
退官するルールとなってい
たとして、「検察官の定年
を個別に延長できる『特
例』を設けること自体が
官が意に反して辞めさせら

ませんでした。

藤野氏は、現行法は「検
察官のキャリアの最後の出
口で内閣が人事に介入でき
ないように『特例』を設け
ていない」と指摘。法改定
で「特例」を設ければ、ど
んなに詳細な「要件」をつ
くっても、「内閣の恣意的
な判断が可能になる」と重
ねて指摘。森法相は「検察
官が意に反して辞めさせら

れることがないことは変わ
らない」などのごまかしの
答弁に終始。藤野氏は安倍
内閣が1月、黒川弘務東京
高検検事長の定年延長を閣
議決定したことが全ての始
まりだとして「検察全体を
ゆがめ、法の支配を、人
の支配」にしてしまつ」と
厳しく批判しました。

野党からは、国民民主党
の後藤祐一議員も追及。武
田担当相は「本来なら法務
省が答える」と連発し、森
法相は恣意的介入にならな
いため「基準」を最後まで
で示すことができまません
でした。